予算・決算委員会（平成30年度予算審査）各委員の質疑

生活・福祉に関すること

成年後見支援センター事業の現状は

質 **平成30年度の介護保険特別会計は、第7期介護保険事業計画の初年度となるが、地域支援事業における任意事業の成年後見支援センター事業費146万3千円に対する過去の相談件数や研修への市民参加の現状は。**

答 室蘭市との定住自立圏の形成に関する協定に基づく連携事業で、相談利用件数は、平成28年度50件、平成29年度（2月末）38件。フォローアップ研修は、平成25年度以降22名が参加し、市民後見人の選任が期待されている。

（天神林）

観光客に分かりやすい観光案内所を

質 **ＪＲ登別駅舎内にある観光案内所が改札口から見えにくい。今後に向けて工夫する考えは。**

答 利用者から案内所が見えにくいという問題は認識しており、来年度に向けて、駅舎の天井部や目に付きやすい場所に、誘導看板を設置する予定である。

また、案内所の壁面も、掲示物を多く張りすぎた反省から、掲示物を選別し、利用者が分かりやすい案内所づくりを進めていく。

（村井）

空き家対策事業費増額の理由は

質 **補助金300万円を増額した理由は。**

答 空き家の利活用促進を目的とし、リフォーム工事の補助制度を創設した。

昭和57年以降に建築された住宅を購入し、300万円以上のリフォーム工事を行う所有者に対し補助する。1件当たりでは、基本額70万円の補助に併せて、子供1人につき10万円、上限30万円を加算し、最大100万円となる。なお、工事は市内業者とすることを条件としている。

（杉尾）

▲川上公園のローラー滑り台

観光・経済・都市整備に関すること

カルルス温泉スキー場の経営のあり方

質 **カルルス温泉スキー場事業で、経営診断等調査業務委託により経営診断を行う理由は。**

答 コンサルタントにサンライバスキー場の現状、収支見通しおよび修繕計画、経営に関する問題点の抽出、地域経済波及効果などの分析を委託し整理する。その結果を基に、将来にわたって安定的にサンライバスキー場を経営していくための中長期的計画を策定したいと考えている。

（工藤）

▲改札を出ると、右手奥側にある案内所

河川の維持補修の予定は

質 **登別市は住宅地を流れる河川が多い。登別地区の伏古別川は主要道の道道2号線沿いを流下し、ＪＣＨＯ登別病院建設予定地横を流れているが、現況調査としゅんせつの予定は。**

答 同河川は平成32年度に現況調査を行う予定である。調査実施前に河川を巡回し、実施河川を決定するものの、パトロール、市民からの通報で土砂や流木による流れの阻害や異変を確認した際は、必要に応じ緊急的にしゅんせつや清掃などの措置をとっていきたい。

（若木）

川上公園内の遊具選定はいかに

質 **川上公園内にあるローラー滑り台の現状と今までの補修費用は。**

また、新しい遊具選定の合意形成は。

答 ローラー滑り台は、各部材が30年経過し損傷・腐食が進行している。

特にローラー部は過去5年間で62万8千円の修理費用がかかり、一時的に使用できない状況になった。

遊具の選定については、市内の児童や保護者などを対象に意見を収集しニーズを反映する。

（二瓶）